

# 本学学生の調理教育に関する研究（2）

－卒業時における調理実態の検討－

中 村 喜 代 美

## 目 次

### 1. は じ め に

### 2. 研 究 方 法

#### 2-1 調査対象と調査時期

#### 2-2 調査内容

#### 2-3 検討項目

### 3. 結 果 と 考 察

#### 3-1 調理実態の質問項目の回答数

#### 3-2 各質問項目の関連

##### 3-2-1 調理参加へのかかわりと調理に対する意識との関連

##### 3-2-2 調理に対する意識、意欲に関する項目および調理参加に関する項目間での関連

##### 3-2-3 調理参加要因と食生活に対する意識

##### 3-2-4 調理参加と調理に対する意識・意欲と卒業時における調理中の態度や計量習慣、調理復習度との関連

#### 3-3 実習料理の復習度

### 4. ま と め

### 参 考 文 献

## 1. は じ め に

近年、生活様式の変化や家庭の核家族化、主婦の就労に伴い、食環境の変化はめざましく、多様化の傾向がみられる。日常食においては、加工食品・調理済食品が多く出廻り、外食が増える中で、家庭の食事作りは、次第に合理化、簡素化傾向がみられ、外部化<sup>®</sup>が進んでいる。それに伴い学生の調理経験も乏しく<sup>®</sup>なっており、今後の調理実習教育にあたり、学生達の調理への知識および能力の向上を目指す授業内容を考えるために、学生の調理実態を把握することが必要と考え、前報では、入学時における家庭での家事への参加状況、調理に対する興味や意欲、これまでの調理達成度、食事への関心、食生活への意識などについて検討したが、これに引き続き今回は、卒業時に短大在学中における家庭での家事への参加状況、調理に対する興味や意欲、食事への関心、食生活への意識などと合わせて、短大での学習が日常の調理に生かされているかを知るため、調理中の態度や授業で取り上げた料理の復習度などについて調査し、検討したので報告する。

中 村 喜 代 美

## 2. 研 究 方 法

### 2-1 調理対象と調査時期

本学食物栄養科1992年度入学生90名と1993年度入学生81名について、調理学実習の2年生最終授業時に、自己記入法によるアンケート調査を行い、即時回収した。

### 2-2 調 査 内 容

卒業時の家庭における調理実態や調理・食への意識や態度、調理復習度などについて、表1のように質問し、また授業で実習に取り上げた料理50品目を取り上げ、それぞれの復習状況について調査した。

### 2-3 検 討 項 目

1. 家庭における調理への参加状況、食や調理への意識、調理への態度など相互の関連
2. 実習で取り上げた料理50品目における復習状況

## 3. 結 果 と 考 察

### 3-1 調理実態の質問項目の回答数

表2は各項目の回答数を示したものです。

まず「料理作りの好き嫌い」についてみると、最終授業時ということでもあり当然ではあるが、6割以上が料理作りは好きと答えていた。また、入学時に比べて「料理とのかかわり」では主になって作るものが、「得意料理の有無」では得意料理があるというものが、それぞれ10%以上増加し、「食べ物の好き嫌い」では、好き嫌いがあるというものが5%ほど低下し、好き嫌いが殆どないものが10%以上増加していた。さらに「食生活への注意の有無」でも注意を払っているものが10%以上増加しており、食の意識が高くなったと考えられた。この他に「料理の度合」「料理情報への関心」で料理をよくするものや常に関心のあるもの、よく買い物に行くものの増加がみられ、入学時に比べ調理に積極的に取り組むようになっている。これは在学中における学習から得たものが基礎となって、家庭での家事への参加度やかかわり方、また、調理への意欲や関心が高められたと考えられた。しかし「料理作りの頻度」では殆ど毎日作るものが、「食事は規則的か」では常に規則的というものの比率が低くなっていた。その理由としては高校時代に比べ短大生活では、アルバイトなど学校や家庭以外での生活の比率が高まり、このことが調理への関わりに制約を与え食生活を不規則にしているものと推測される。また「料理の伝承」ではよく習うというものが減少しているが、これは授業による習得の機会が増えるため、入学時よりも母親、祖母から習うということが少なくなったためと考えられる。

次に2年時の調査に加えた「調理中の態度」や「授業で取上げた料理の復習度」などについては、特に「計量の習慣」で常に計るもの、「切り方の練習」でよく切り方練習するものが10%以下と低い結果になった。

表1 家庭における調理実態についての質問事項

- 
- I、家庭状況
- 1、家族形態
    - ① 核家族世帯      ② 拡大家族世帯
  - 2、家庭の職業形態
    - ① 農家世帯      ② 自営業世帯      ③ 勤労者世帯
  - 3、主婦（母親）の就労状況
    - ① 無 職      ② 有 職
- II、家庭における調理実態と調理・食への意識や態度
- 4、あなたはお家で料理をよくしますか。
    - ① よくする      ② たまにする      ③ 殆どしない
  - 5、あなたは家で食事を作ることにどの位加わっていますか。
    - ① 家族に代わり主になって作る      ② 家族が作るのを手伝う      ③ 殆どしない
  - 6、家で食事を作ることに加わる頻度はどの位ですか。
    - ① 殆ど毎日      ② 1週間に3～4回      ③ 1週間に1～2回
    - ④ 1ヶ月に1～2回      ⑤ 殆どしない
  - 7、あなたは料理をすることが好きですか
    - ① 好 き      ② 普 通      ③ 嫌 い
  - 8、あなたには得意な料理がありますか
    - ① あ る      ② な い
  - 9、料理について、雑誌やテレビなどに関心を持っていますか。
    - ① いつも関心を持っている      ② 時々関心を持つ      ③ あまり関心がない
  - 10、お母さんやお祖母さんから料理を習うことがありますか。
    - ① よく習う      ② たまに習う      ③ 殆ど習ったことはない
  - 11、郷土料理や伝統食に興味がありますか
    - ① あ る      ② な い
  - 12、食品の買物によく行きますか。
    - ① よく行く      ② 時々行く      ③ 殆ど行かない
  - 13、食べ物に好き嫌いがありますか。
    - ① よくある      ② すこしある      ③ 殆どない
  - 14、食事はいつも規則正しくとっていますか。
    - ① いつも規則正しく食べている      ② 時々不規則になる
    - ③ いつも不規則である
  - 15、あなた自身の食生活で気をつけていることがありますか。
    - ① あ る      ② な い
  - 16、調理をする時、使う器具や火加減などに注意を払いますか。
    - ① いつも注意している      ② 時々注意をする      ③ 殆ど注意しない
  - 17、家で調理をするとき調味料などを計量器で計りますか。
    - ① いつも計って調理する      ② 時々計って調理する      ③ 殆どカンで調理する
  - 18、食器や盛りつけに関心を持ち、配慮していますか。
    - ① いつも関心を持つ      ② 時々関心を持つ      ③ あまり関心がない
  - 19、包丁の使い方について練習しましたか。
    - ① よく練習した      ② 時々練習した      ③ あまり練習しなかった
  - 20、授業で習った料理を家でも作りましたか。
    - ① よく作った      ② 時々作った      ③ あまり作らなかった
-

中 村 喜 代 美

表 2 各項目の回答数

アイテム	カテゴリー	人数(人)	比率 (%)
家族形態	核家族	95	55.6
	拡大家族	76	44.4
家の職業形態	農家世帯	15	8.8
	自営業世帯	47	27.5
	勤労者世帯	109	63.7
主婦就労状況	無 職	56	32.7
	有 職	115	67.3
料理の度合	よくする	43	25.1
	たまにする	106	62.0
	殆どしない	22	12.9
料理とのかかわり	主に作る	39	22.8
	家族の手伝い	122	71.3
	殆どしない	10	5.8
料理作り頻度	殆ど毎日	25	14.6
	週3～4回	40	23.4
	週1～2回	74	43.3
	月1～2回	22	12.9
	殆どしない	10	5.8
料理作りの好き嫌い	好 き	110	64.3
	普 通	58	33.9
	嫌 い	3	1.8
得意料理の有無	あ る	100	58.5
	な い	71	41.5
料理情報への関心	常に関心	71	41.5
	時々関心	94	55.0
	関心なし	6	3.5
料理の伝承	よく習う	19	11.1
	たまに習う	129	75.4
	殆ど習わぬ	23	13.5
郷土料理への関心	あ る	90	52.6
	な い	81	47.4
買い物	よく行く	68	39.8
	時々行く	82	48.0
	殆ど行かない	21	12.3
好き嫌い	よくある	24	14.0
	すこしある	74	43.3
	殆どない	73	42.7
食事規則的か	常に規則的	58	33.9
	時々不規則	103	60.2
	常に不規則	10	5.8
食生活注意	あ る	120	70.2
	な い	51	29.8
調理中態度	いつも注意	84	49.1
	時々注意	79	46.2
	殆ど注意しない	8	4.7
計量習慣	いつも計量	12	7.0
	時々計量	56	32.7
	殆どカン	103	60.2
食器盛付関心	いつも関心	40	23.4
	時々関心	111	64.9
	関心なし	20	11.7
切り方練習	よく練習	15	8.8
	時々練習	104	60.8
	練習しない	52	30.4
調理復習	よく作る	38	22.2
	時々作る	122	71.3
	作らない	11	6.4

表3 質問項目間の関連

家族形態	家の職業形態	主婦就業状況	料理の度合	料理とのかかわり	料理作りの頻度	料理作りの好き嫌い	得意料理の有無	料理情報への関心	料理の伝承	郷土料理への関心	買い物へ行く	食物の好き嫌い	食事は規則的か	食生活への注意	調理中の態度	計量習慣	食器盛付への関心	切り方の練習	料理復習
	**																		
家の職業形態		**																	
主婦就業状況			**																
料理の度合				**															
料理とのかかわり					*														
料理作りの頻度						*													
料理作りの好き嫌い							*												
得意料理の有無				**		*		*											
料理情報への関心				**		*		*											
料理の伝承						*		*	*										
郷土料理への関心						*		*	*										
買い物へ行く	*					*		*	*	*									
食べ物の好き嫌い				*		*		*	*	*	*								
食事は規則的か								*	*	*	*								
食生活への注意						*		*	*	*	*								
調理中の態度								*	*	*	*								
計量習慣		*						*	*	*	*					*			
食器盛付への関心				*		*		*	*	*	*			*	*	*	*		
切り方の練習								*	*	*	*							*	
料理復習					*		*	*	*	*	*	*					*	*	*

\*\* P<0.01  
\* P<0.05

### 3-2 各質問項目の関連について

表3は、各質問項目間の関連性をみるために、前報と同様に学生の家庭状況や調理実態への質問項目のすべてをクロス集計し、カイ二乗統計量により、有意検定を行ったものである。

表3で、有意差があった関連項目は、まず調理の参加状況に関する項目では「得意料理の有無」「料理情報への関心」「料理の復習」など比較的多くの項目と関連し有意差がみられた。

次に調理の意識、意欲、関心に関する項目では、いくつかの項目と関連し、有意差がみられた。

「料理作り好き嫌い」では、「料理との関わり」「得意料理の有無」「郷土料理への関心」「食べ物好き嫌い」などとそれぞれ有意差がみられた。

「料理情報への関心」でも、「料理の度合」「得意料理の有無」「料理を習う度合」などと関連し有意差がみられた。

さらに、「郷土料理への関心」「料理の盛り付けへの関心」についても「料理作り好き嫌い」「食生活への注意」などに有意差がみられた。

また、家での調理への態度や復習状況に関する項目では、「料理とのかかわり」「得意料理の有無」「料理の盛り付けへの関心」などとの関連で有意差がみられた。

そこで以上の関連行例で関連のみられたものを取り上げて、次に検討を行った。

#### 3-2-1 調理参加へのかかわりと調理に対する意識との関連について

a. 「料理作りの度合」では、「得意料理の有無」「料理情報への関心」などに関連がみられた(図1、2)

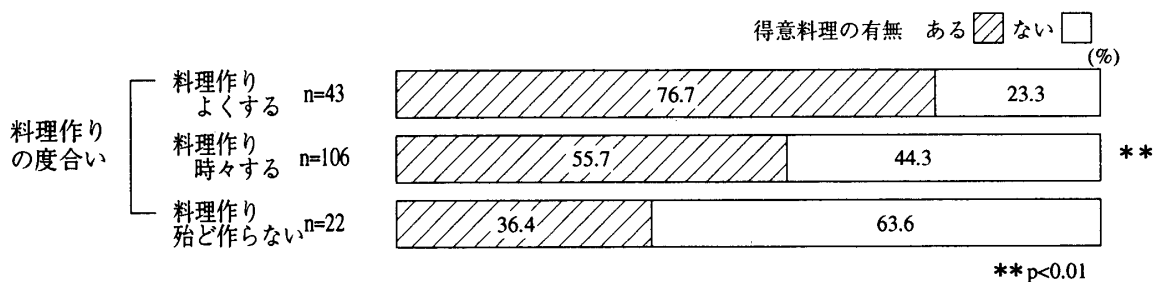


図1 料理作りの度合いと得意料理の有無の関連

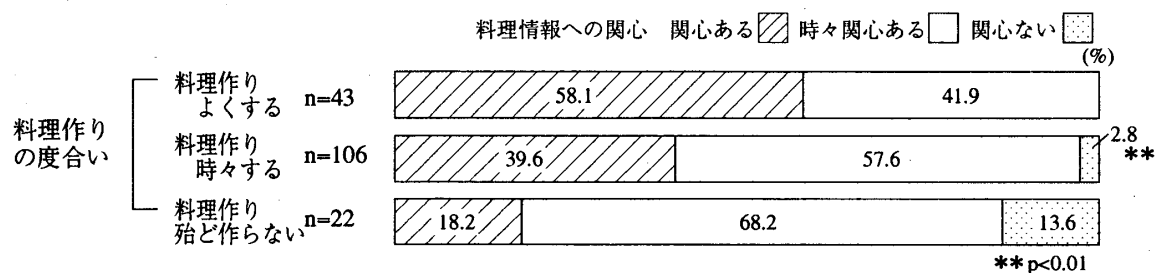


図2 料理作りの度合いと料理情報への関心の関連

最初に「料理作りの度合」と「得意料理の有無」では、得意料理があると答えたものは、料理をよく作るグループでは76.7%に対し、時々作るグループは55.7%と低く、殆ど作らないグループで36.4%とさらに低くなっていた。やはり料理をよく作れば、得意料理も増える傾向がみられた。

次に「料理情報への関心」では関心があると答えたものは、料理をよく作るグループで58.1%に対し、時々作るグループは39.6%と低く、殆ど作らないグループでは18.2%とさらに低くなっていた。また関心がないものは、よく作るグループでいないのに対し、殆ど作らないグループでは13.6%と高くなっていた。料理をよく作るものほど雑誌、本、テレビなどの料理情報に関心があるようであった。

ｂ.「料理作り頻度」では、「料理の伝承」「食べ物の買い物状況」「得意料理の有無」「料理情報への関心」などに関連がみられた。（図３、４、５、６）

最初に「料理作り頻度」と「料理の伝承」との関連では、よく習うと答えたものは、料理を毎日作るグループで32.0%に対し、月１～２回作ると殆ど作らないグループで3.0%と低く、また習わないものは、毎日作るグループで4.0%に対し、月１～２回作ると作らないグループでは21.9%と高くなっていた。料理を毎日作っている人は、母親や祖母からも自然に習っている姿勢が伺えた。

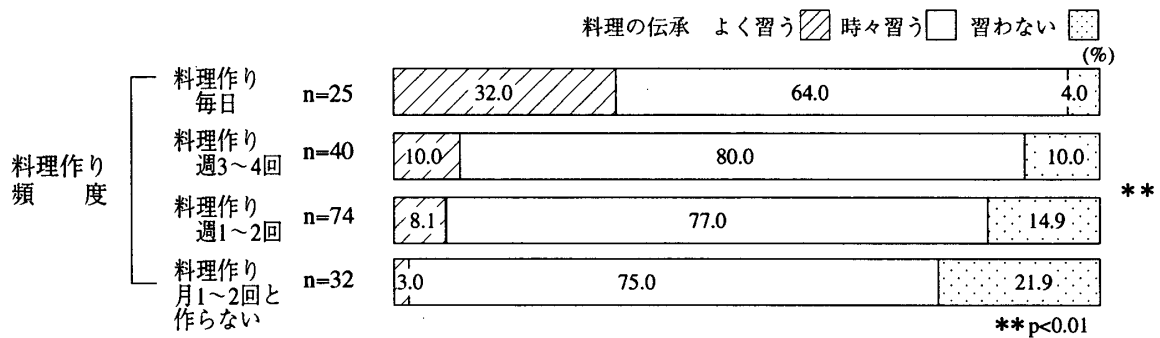


図３ 料理作り頻度と料理の伝承の関連

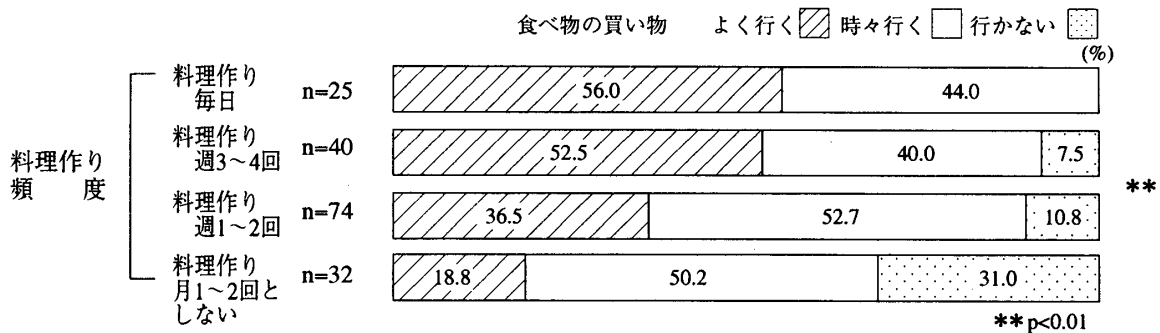


図４ 料理作り頻度と食べ物の買い物の関連

次に「食べ物の買い物」では、買い物によく行くものは、毎日作るグループで56.0%に対し、週1～2回作るグループは36.5%と低く、月1～2回作ると作らないグループでは18.8%とさらに低くなっていた。一方行かないものは、毎日作るグループでいないのに対し、月1～2回作ると作らないグループで31.0%と高くなっていた。これは前報の調査とほぼ同じ傾向であるが、料理を毎日作るグループと週3～4回作るグループで人数は減少しているものの、その中で、よく行くものの割合は入学時の頃に比べ増加していた。

また「得意料理の有無」では、得意料理のあるものは、毎日作るグループで76.0%に対し、週1～2回作るグループでは58.1%と低く、月1～2回作ると作らないグループで34.3%とさらに低くなっていた。また得意料理がないものは、毎日作るグループで24.0%に対し、月1～2回作ると作らないグループで65.6%と高くなっていた。当然のことであるが、料理作りの頻度が多ければ得意料理も増えており、前報と同じ傾向であった。

最後に「料理情報への関心」では、関心があるものは、毎日作るグループで68.0%に対し、月1～2回作ると作らないグループで25.0%と低くなっていた。これは前報に比べてどのグループにおいても、料理情報に関心があるものが増え、関心がないものが減っており、食に関する学習の中で料理情報への関心が高まったためと推測された。

以上、当然のことながら家庭の調理への参加やかかわり方は、調理技術の習得や調理への関心などと、それぞれ相乗的に強く関連しているようであった。

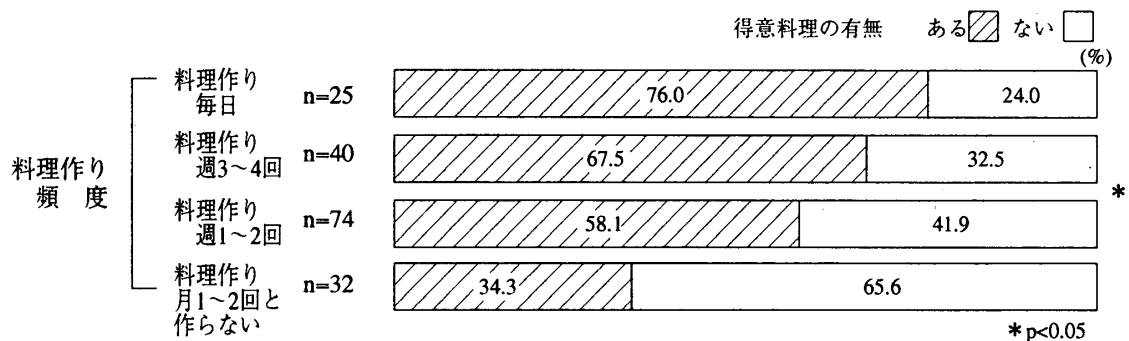


図5 料理作り頻度と得意料理の有無の関連

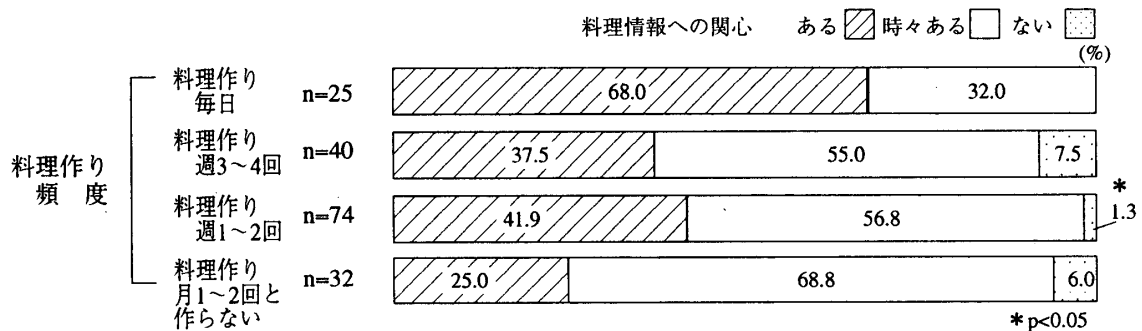


図6 料理作り頻度と料理情報への関心の関連

## 本学学生の調理教育に関する研究（2）

### 3-2-2 調理に対する意識、意欲に関する項目及び調理参加に関する項目間での関連

a. 「料理作り好き嫌い」では、「得意料理の有無」「郷土料理への関心」「料理とのかかわり」「食べ物の買い物」などに関連がみられた。（図7、8、9、10）

最初に「料理作り好き嫌い」と「得意料理の有無」では、得意料理があると答えたものは、料理作りが好きなグループで68.2%に対し、作るのは普通のグループでは39.7%と低くなっていた。これは、授業での多くの調理経験により自信につながり、料理作りの好きなものが増え、さらには得意料理のあるものも増え、それぞれ相乗的に関連していると推測された。

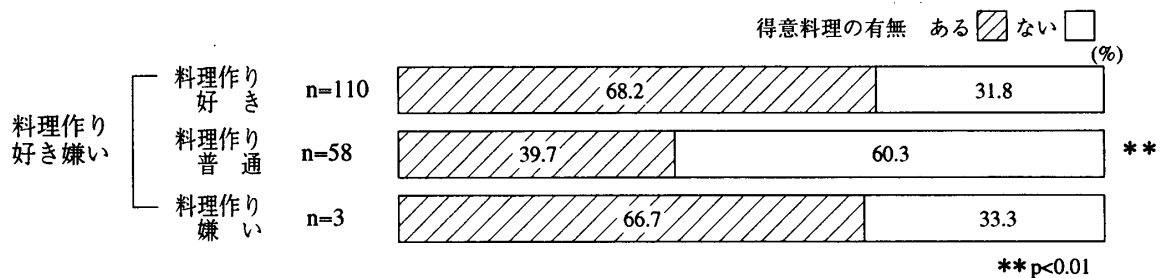


図7 料理作り好き嫌いと得意料理の有無の関連

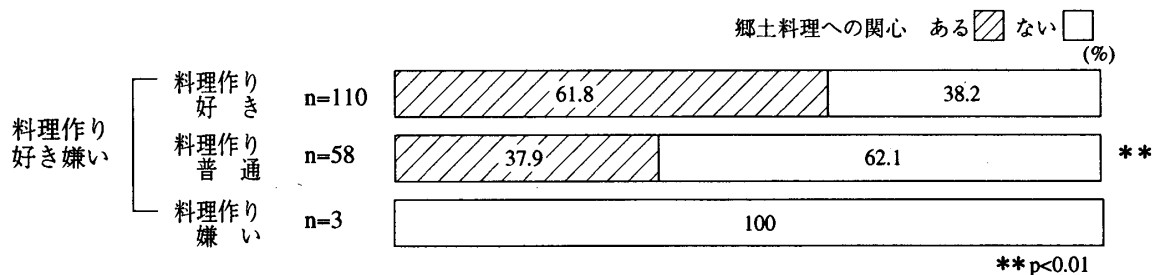


図8 料理作り好き嫌いと郷土料理への関心

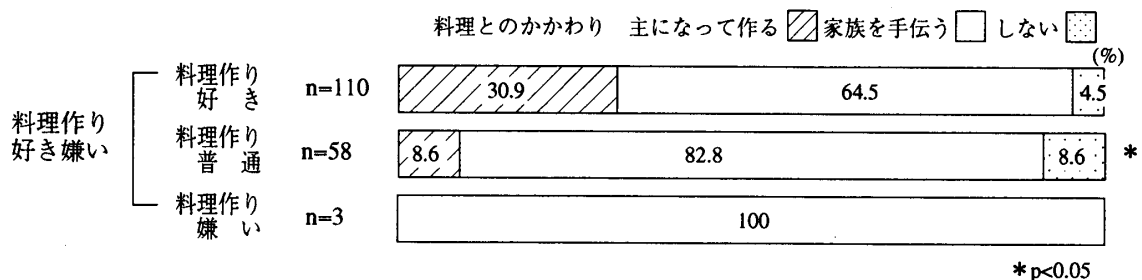


図9 料理作り好き嫌いと料理とのかかわりの関連

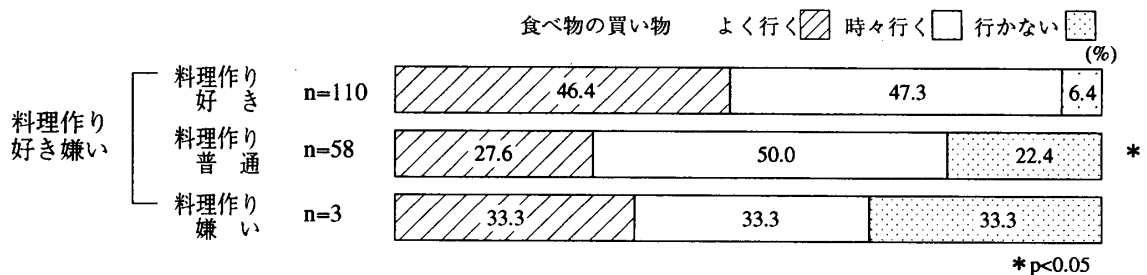


図10 料理作り好き嫌いと食べ物の買い物の関連

次に「郷土料理への関心」では興味があるものは、作るのが好きなグループで61.8%に対し、作るのは普通のグループでは37.9%と低くなっていた。

また「料理のと関わり」では、主になって作るものは、作るのが好きなグループで30.9%に対し、作るのは普通のグループでは8.6%と低くなっていた。一方料理を作らないものは、作るのが好きなグループで4.5%に対し、作るのは普通のグループでは8.6%と高くなっていた。

最後に「食べ物の買い物」では、買い物に行くものは、作るのが好きなグループで46.4%に対し、作るのは普通のグループでは27.6%と低くなっていた。また行かないものは、作るのが好きなグループでは、6.4%に対し、作るのは普通のグループで22.4%と高くなっていた。これは入学時に比べ、料理作りが好きなものは11名ほど増えているものの、食べ物の買い物によく行くものについては10名ほど減っていた。

このように、当然ではあるが料理作りが好きなものほど、食べ物の買い物によく行き、料理は主になって積極的に作っているため、郷土料理、伝統料理にも興味があり、また得意料理をもっていた。

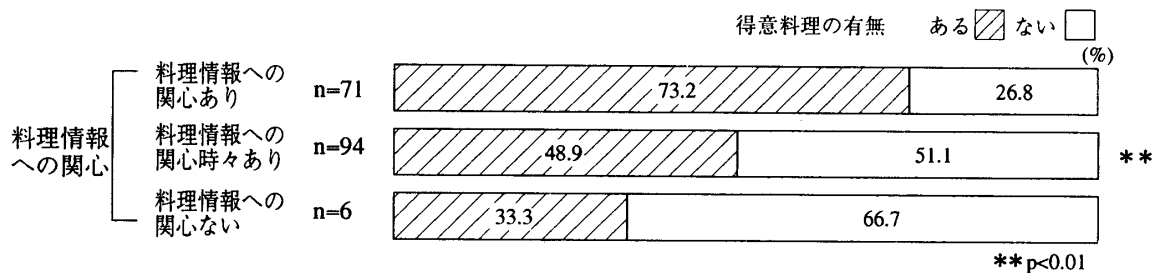


図11 料理情報への関心と得意料理の有無の関連

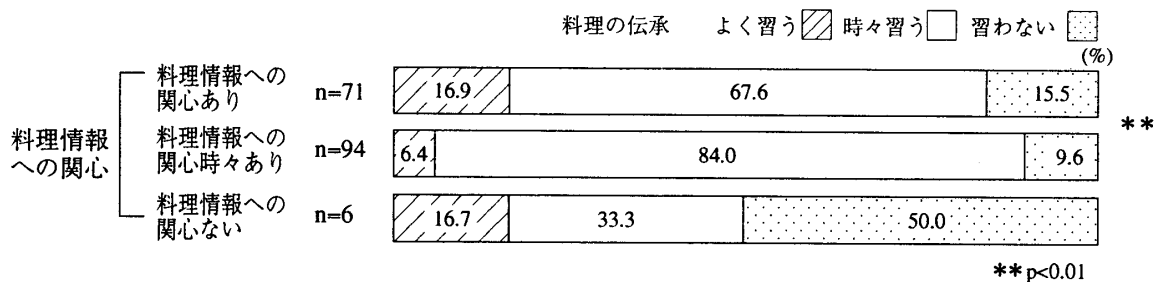


図12 料理情報への関心と料理の伝承の関連

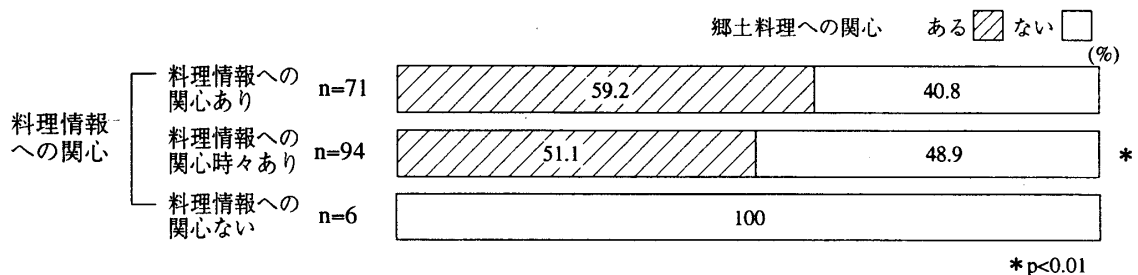


図13 料理情報への関心と郷土料理への関心の関連

b.「料理情報への関心」では、「得意料理の有無」「料理の伝承」「郷土料理への関心」などに関連がみられた。（図11、12、13）

最初に「料理情報への関心」と「得意料理の有無」では、得意料理があると答えたものは、料理情報に常に関心があるグループで73.2%に対し、時々関心があるグループでは48.9%と低くなっており、雑誌や本、テレビの料理情報に関心の多いものほど得意料理をもっていた。また入学時の頃に比べ料理情報への関心のあるものは12名増えており、この中で得意料理のあるものは17名増加し、反対に得意料理のないものは5名減少していた。このことは料理情報への関心が時々あるグループでも同様の傾向であり、卒業時には2か年の調理経験が活され、自分の得意料理があるものが増えることが伺えた。

次に「料理の伝承」では、よく習うものは、料理情報に常に関心があるグループで16.9%に対し、時々関心があるグループでは6.4%と低くなっていた。また習わないものは、常に関心があるグループで15.5%に対し、時々関心があるグループで9.6%と低くなっていた。入学時と比べ料理情報への関心が高いものは12名増加しているものの、この中で、よく習うものは7名減少し、習わないものは3名増えており、料理情報への関心が時々あるものでも同様な傾向がみられた。また入学時では、雑誌や本、テレビの料理情報への関心の高いものほど料理を母親

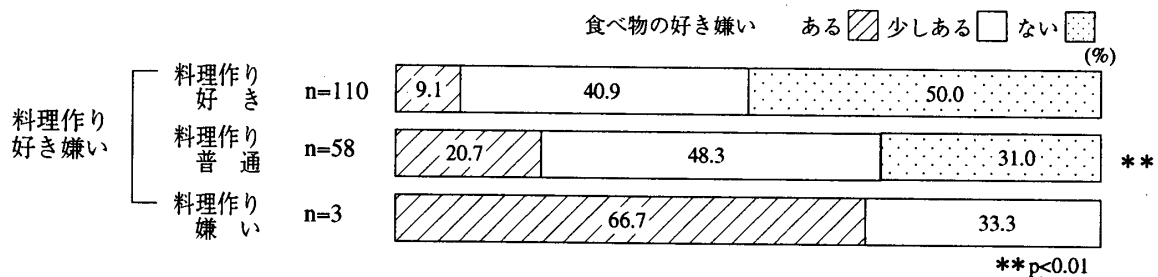


図14 料理作り好き嫌いと食べ物の好き嫌いの関連

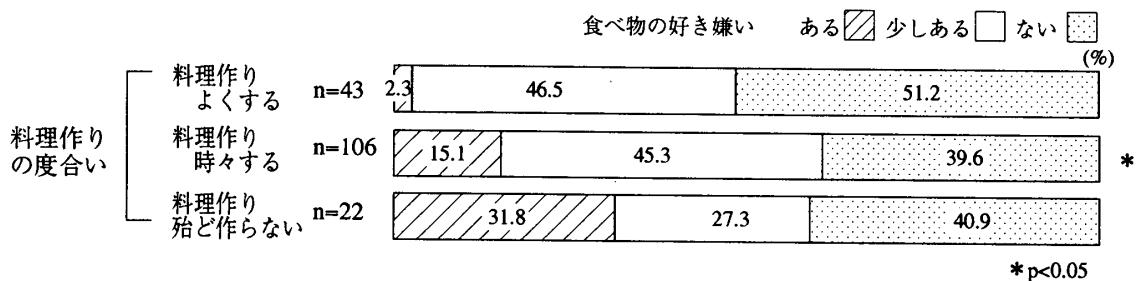


図15 料理作りの度合いと食べ物の好き嫌いの関連

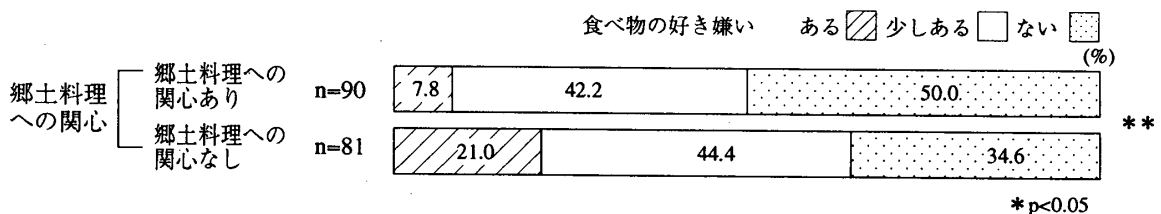


図16 郷土料理への関心と食べ物の好き嫌いの関連

や祖母からよく習っていたが、卒業時の頃は、授業での調理経験があるためであろうか、料理情報への関心は高いが、母親、祖母から料理を習うということは減っているようであった。

また「郷土料理への関心」では、関心があるものは、料理情報に関心があるグループで59.2%に対し、時々関心があるグループでは51.1%と低く、入学時の頃と比べ料理情報に関心の高いものは12名増えているものの、郷土料理への関心については、関心があるもの、時々関心あるものは、1年時と同様な傾向がみられた。

以上より卒業時には、調理経験も豊かになり、また料理の雑誌や本、テレビに関心を多くもつものが増えて、自分の得意料理のあるものも増える傾向がみられたが、母親、祖母から習うものは減り、郷土料理については実習を行っているものの今日では食生活が洋風化し、調理が簡便化しているためか関心があるものの増加はみられなかった。

### 3-2-3 調理参加状況と食生活に対する意識

a. 「料理作りの好き嫌い」「料理作りの度合」「郷土料理への関心」は、それぞれ「食べ物の好き嫌い」と関連がみられた。(図14、15、16)

最初に「料理作りの好き嫌い」と「食べ物の好き嫌い」では、食べ物の好き嫌いがあると答えたものは、料理作りが好きなグループで9.1%に対し、作るのは普通のグループでは20.7%と高く、また食べ物の好き嫌いのないものは、作るのが好きなグループで50.0%に対し、作るのは普通のグループでは31.0%と低く、料理作りの好きなグループは意欲的に料理を作り楽しむため、食べ物の好き嫌いも少ない傾向がみられた。

次に「料理作りの度合」では、食べ物の好き嫌いがあるものは、よく作るグループで2.3%に対し、時々作るグループでは15.1%と高く、殆ど作らないグループでは31.8%とさらに高くなっていた。一方食べ物に好き嫌いが無いものは、よく作るグループで51.2%に対し、時々作るグループでは39.6%と低く、料理をよく作るものはやはり意欲的に料理作りをするため、食

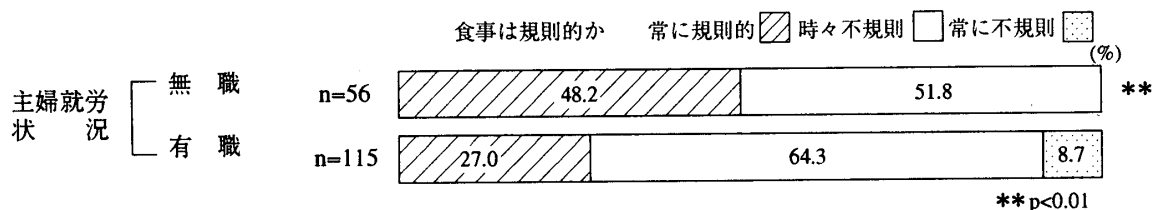


図17 主婦就労状況と食事は規則的かの関連

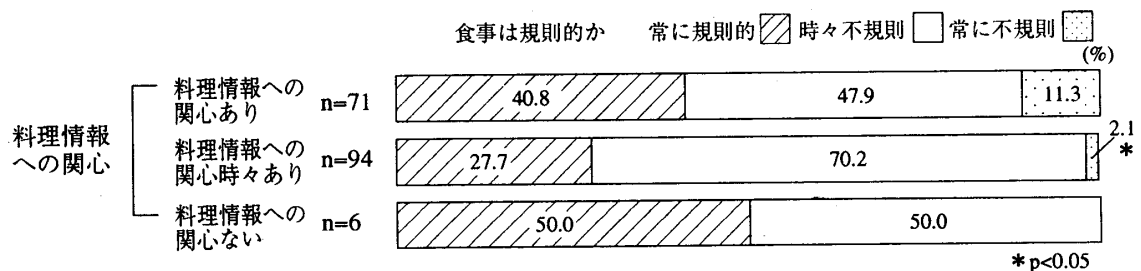


図18 料理情報への関心と食事は規則的かの関連

べ物の好き嫌いも少ないようであった。

また「郷土料理への関心」では、食べ物の好き嫌いがあるものは、郷土料理に関心があるグループで7.8%に対し、関心がないグループでは21.0%と高く、また好き嫌いがないものは、関心があるグループで50.0%に対し、関心がないグループでは34.6%と低く、「郷土料理への関心」でも、関心が高いものほど、食べ物の好き嫌いが少ない傾向であった。

b.「主婦の就労状況」「料理情報への関心」は、それぞれ「食事は規則的か」と関連がみられた。（図17、18）

まず「主婦就業状況」と「食事は規則的か」とでは、食事は常に規則的であるものは主婦が無職のものでは48.2%に対し、有職のものは27.0%と低く、また常に不規則であるものは、無職のものではないののに対し、有職のものでは8.7%と高く、当然のことであるが、1年時と同様に主婦が有職の場合忙しいため、食事は規則的に食べることが少ないようである。

また「料理情報への関心」では、食事は常に規則的であるものは、料理情報への関心があるグループでは40.8%に対し、時々関心があるグループで27.7%と低く、また食事は常に不規則であるものは、関心があるグループで11.3%に対し、時々関心があるグループでは2.1%と低く、雑誌や本、テレビ等で食や健康に関する多くの料理が紹介され、関心があるものの多くは

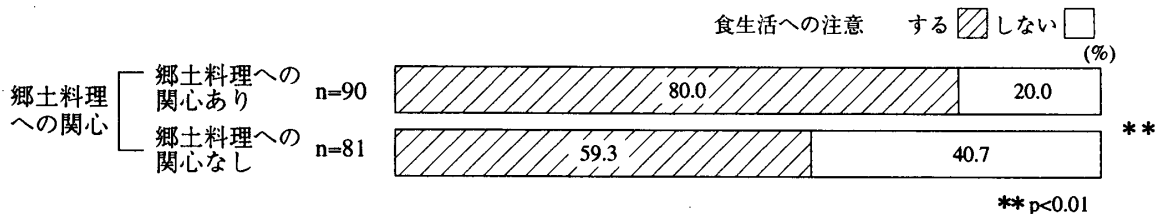


図19 郷土料理への関心と食生活への注意の関連

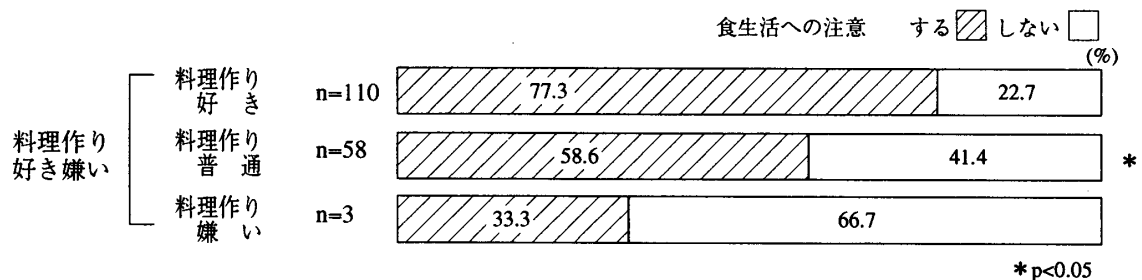


図20 料理作りの好き嫌いと食生活への注意の関連

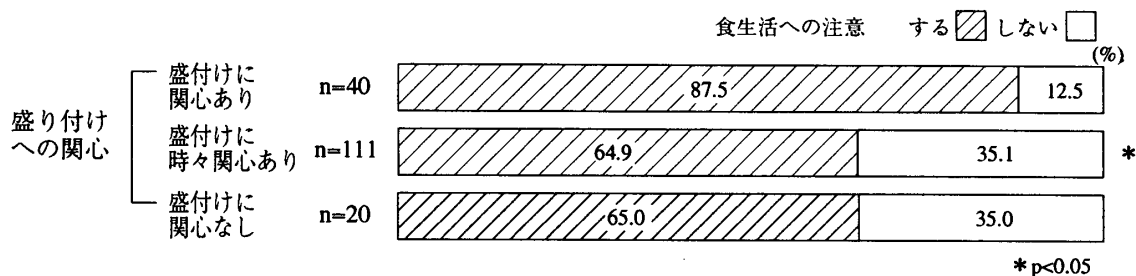


図21 盛り付けへの関心と食生活への注意の関連

食事は規則的に食べてはいるが中で食事が不規則なものが予想に反して多くいた。

c.「郷土料理への関心」「料理作り好き嫌い」「料理の盛り付けへの関心」と、それぞれ「食生活への注意」と関連がみられた。(図19、20、21)

最初に「郷土料理への関心」では、食生活への注意を払っているものは、郷土料理に関心があるグループで80.0%に対し、関心がないグループでは59.3%と低くなっていた。

次に「料理作り好き嫌い」では、食生活への注意を払っているものは、料理作りの好きなグループで77.3%に対し、普通のグループでは58.6%と低く、また食生活に注意をしないものは、作るのが好きなグループで22.7%に対し、普通のグループでは41.4%と高く、料理作りを積極的に楽しむものは食生活への注意も払っている様子が伺えた。

また、「料理の盛り付けへの関心」では、食生活に注意を払っているものは、盛り付けに関心があるグループで87.5%に対し、時々関心があるグループでは64.9%と低く、料理の盛り付けにまで気を付けているものは、食生活にも注意を払っている様子が伺えた。

前報においても入学時の食生活への態度や意識とかがかわる要因について検討したが、食生活の意識の高いことが必ずしも調理の積極的な態度や料理への関心の高さに結びつかずこの時点では、食生活の意識と調理への態度が必ずしも関連しないことが伺えた。しかし卒業時には、食や健康についての学習の中で得たいろいろの学びが活かされ、食や健康への関心と栄養の意識の項目で調理への参加や意識、意欲と関連がみられ、2年間の短大での教育が調理の積極的な態度や料理への関心を少しは、高めることができたものと推察できる。

3-2-4 調理参加や調理に対する意識意欲と卒業時における調理中の態度や計量習慣、調理復習度との関連について

a.「器具や火加減に注意」「盛り付けへの関心」では「調理時における計量の有無」と関連

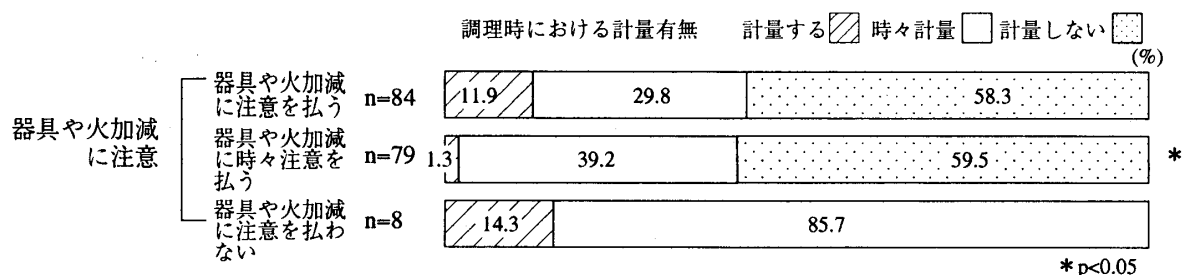


図22 器具や火加減に注意と調理時における計量有無の関連

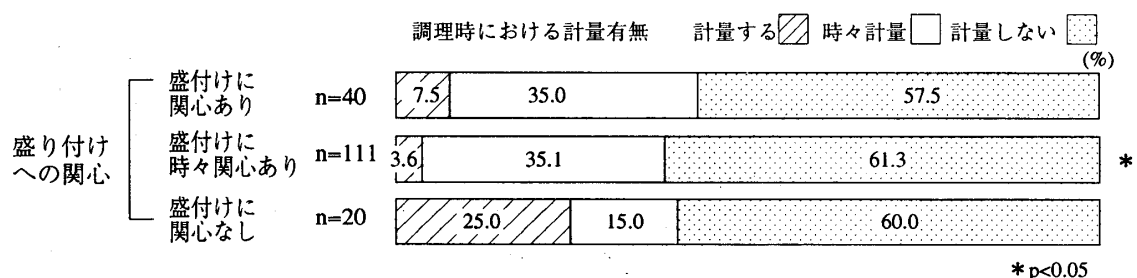


図23 盛り付けへの関心と調理時における計量有無の関連

がみられた。(図22、23)

まず「器具や火加減に注意」と「調理時における計量の有無」では、常に計量するものは、器具や火加減に注意を払うグループ11.9%に対し、時々注意を払うグループは1.3%と低くなっていた。

次に「料理の盛り付けへの関心」では、常に計量するものは、盛り付けに関心がないグループで最も多く25.0%、次に関心があるグループで7.5%と低く、時々関心があるグループで3.6%とさらに低くなっていた。

調理を合理的、計画的に進めるためには、食品や調味料を正確に計測し、温度や時間を知り、正確に計る事が必要である。<sup>7)</sup>ものを計測する習慣は、科学的に調理をする姿勢の現われであ

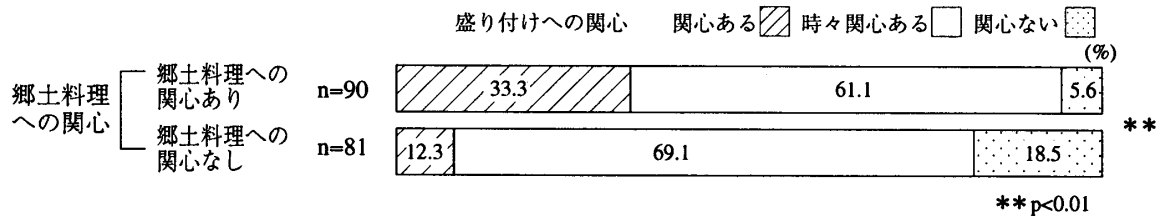


図24 郷土料理への関心と盛り付けへの関心の有無の関連

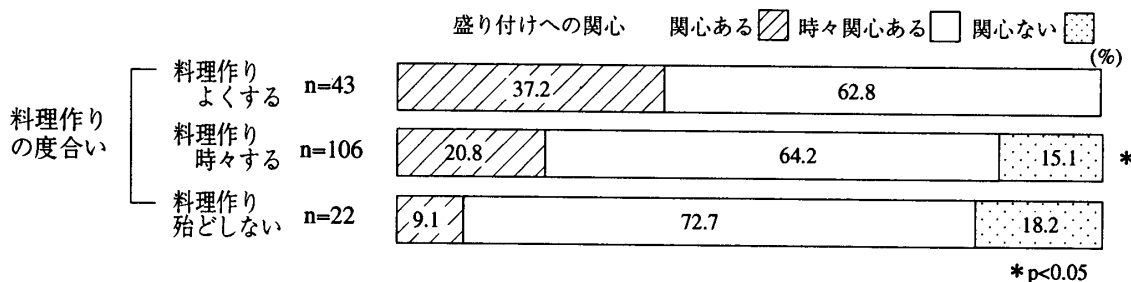


図25 料理作りの度合いと盛り付けへの関心の関連

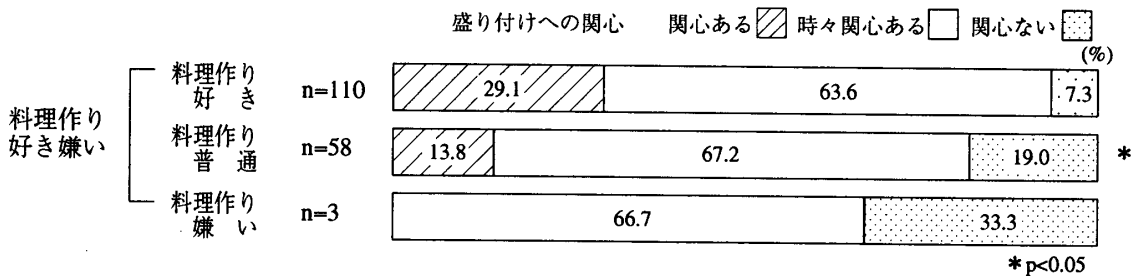


図26 料理作り好き嫌いと盛り付けへの関心の関連

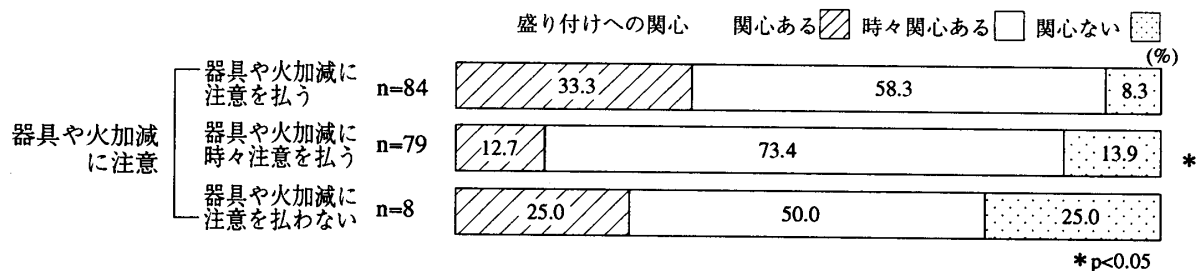


図27 器具や火加減に注意と盛り付けへの関心の関連

り、この訓練により目分量による重量の概念も養われるのであるが、器具や火加減に常に注意を払っている学生は84名、料理の盛り付けには常に40名が関心をもっているが、常に計量しているものはわずか12名であった。

2か年の調理教育の中で、調理をする時には計量を重ねることがいかに重要で、調理上達の早道であるかを理解させる指導が必要であると考えている。

b.「郷土料理への関心」「料理作り度合」「料理作りの好き嫌い」「器具や火加減に注意」では、それぞれ「料理の盛り付けへの関心」と関連がみられた。(図24、25、26、27)

最初に「郷土料理への関心」と「盛り付けへの関心」では、盛り付けに関心があるものは、郷土料理に関心があるグループで33.3%に対し、関心がないグループでは12.3%と低くなっていた。

次に「料理作りの度合」では、盛り付けに関心があるものは、料理をよく作るグループで37.2%に対し、時々作るグループは20.8%と低く、殆ど作らないグループでは9.1%とさらに低くなっていた。また関心がないものは、料理をよく作るグループでいないのに対し、時々作るグループで15.1%と高く、殆ど作らないグループでは18.2%とさらに高くなっていた。

また「料理作り好き嫌い」では、盛り付けへの関心があるものは、料理作りの好きなグループで29.1%に対し、作るのは普通のグループでは13.8%と低く、また関心がないものは、作るのが好きなグループで7.3%に対し、作るのは普通のグループで19.0%と高くなっていた。

最後に「器具や火加減に注意を払う」では、盛り付けへの関心があるものは、器具や火加減に注意を払うグループで33.3%に対し、時々注意を払うグループでは12.7%と低く、また関心がないものは、注意を払うグループで8.3%に対し、時々注意を払うグループでは13.9%と高

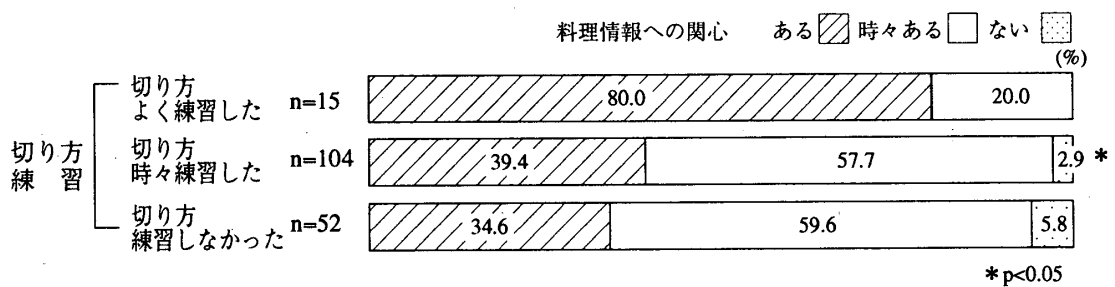


図28 切り方の練習と料理情報への関心の関連

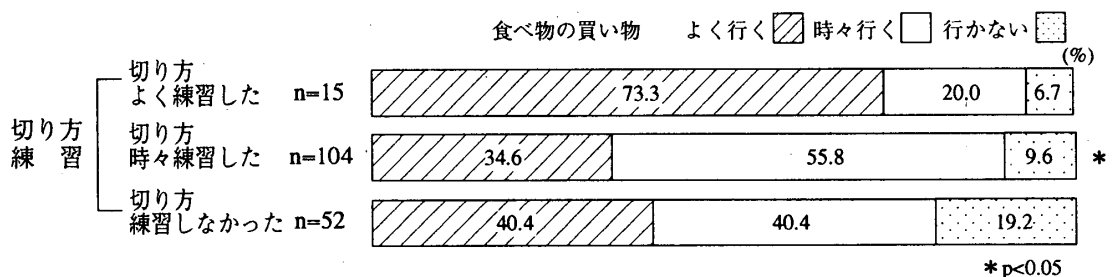


図29 切り方の練習と食べ物の買い物の関連

くなっていた。

当然のことながら料理作りの最後の段階の盛り付けに関心があるものは、調理参加、調理に対する意欲、興味、また調理時の際の気配りは、それぞれ相乗的に関連しているようであった。

c.「切り方の練習」では、「料理情報への関心」「食べ物の買い物に行く」などに関連がみられた。（図28、29）

まず「料理情報への関心」では、関心があるものは、よく切り方を練習したグループで80.0%に対し、時々練習したグループでは39.4%と低く、練習はしなかったグループでは34.6%とさらに低く、また関心がないものは、よく練習したグループではいないのに対し、時々練習したグループで2.9%と高く、練習しなかったグループでは5.8%とさらに高くなっていた。

次に「食べ物の買い物に行く」では、よく行くものは、よく練習したグループ73.3%に対し、練習しなかったグループでは40.4%と低く、時々練習したグループで34.6%とさらに低くなっていた。また行かないものは、よく練習したグループで6.7%に対し、時々練習したグループでは9.6%と高く、練習しなかったグループでは19.2%とさらに高くなっていた。

基本的な調理経験で切り方を練習したものは、雑誌や本、テレビの料理情報に関心があり、食べ物の買い物を積極的に行っていた。

d.「料理作りの復習」では、「食べ物の買い物に行く」「料理とのかかわり」「料理作り頻度」「得意料理の有無」「料理情報への関心」「料理の盛り付けに関心」などに関連がみられた。（図30、31、32、33、34、35）

まず、「食べ物の買い物に行く」ではよく行くものは、習った料理をよく作ったグループで65.8%に対し、時々作るグループは32.8%と低く、また行かないものは、よく作るグループで

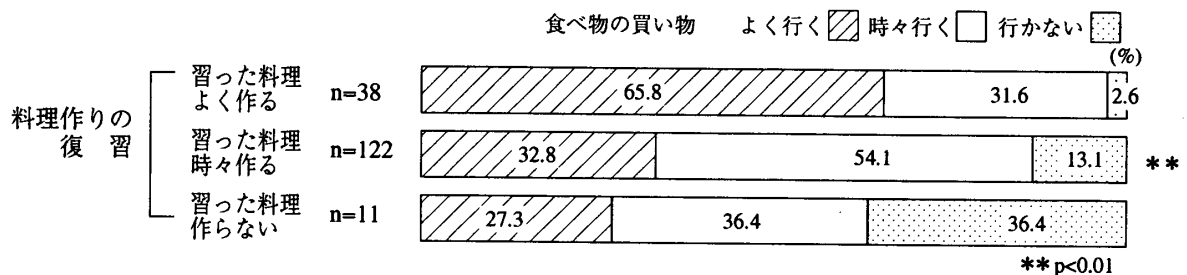


図30 料理作りの復習と食べ物の買い物の関連

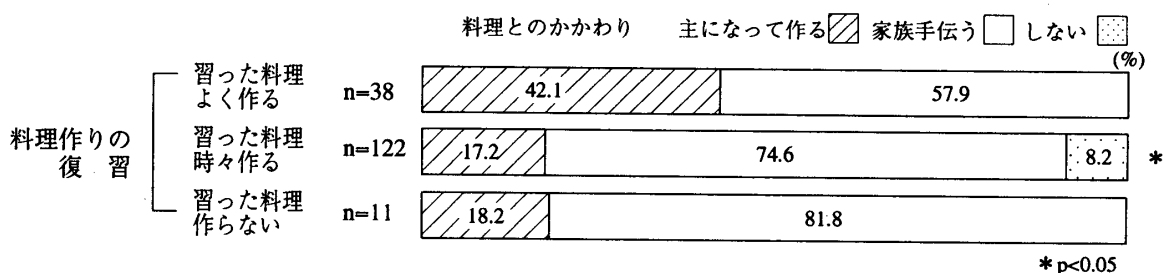


図31 料理作りの復習と料理とのかかわりの関連

2.6%に対し、時々作るグループでは13.1%と高くなっていた。

次に「料理とのかかわり」では、主になって作るものは、よく作ったグループで42.1%に対し、時々作るグループでは17.2%と低く、また作らないものは、よく作るグループでいなのに対し、時々作るグループで8.2%と高くなっていた。

また、「料理作り頻度」では、料理を毎日作るものは、よく作るグループで26.3%に対し、時々作るグループでは9.8%と低く、また作らないものは、よく作るグループでいなのに対し、時々作るグループでは8.2%と高くなっていた。

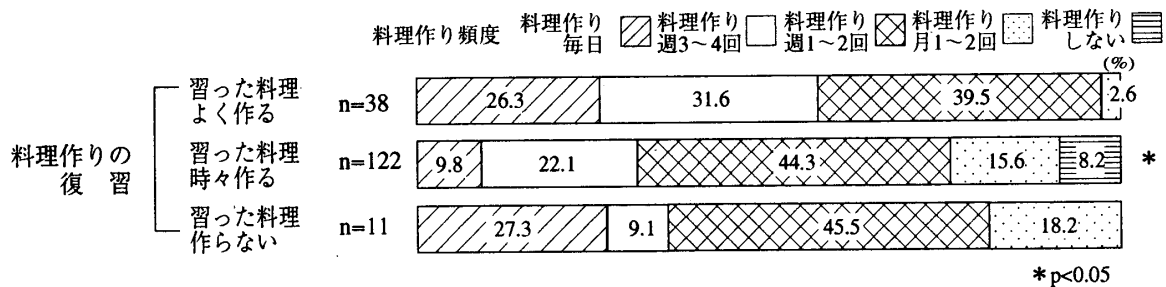


図32 料理作りの復習と料理作り頻度の関連

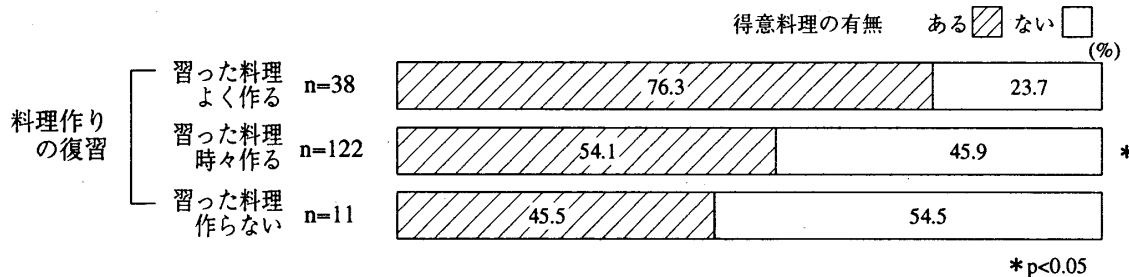


図33 料理作りの復習と得意料理の有無の関連

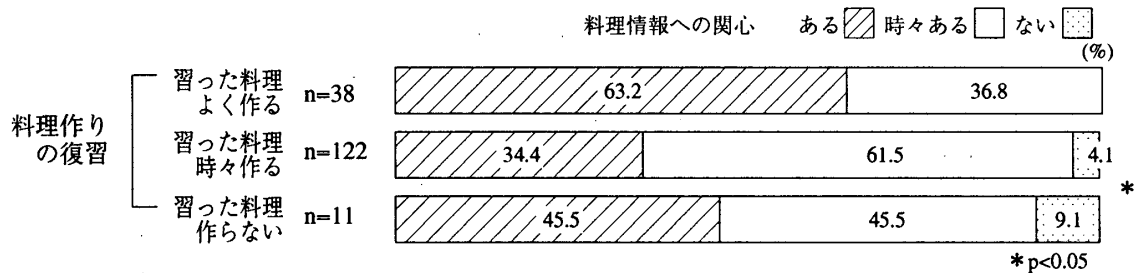


図34 料理作りの復習と料理情報への関心の関連

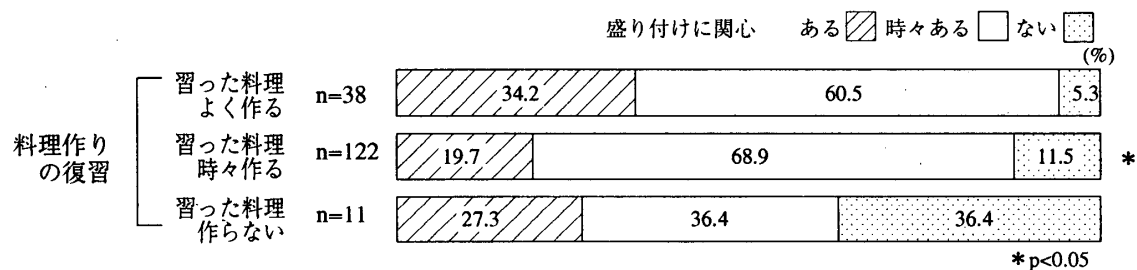


図35 料理作りの復習と盛り付けに関心の関連

さらに「得意料理の有無」では、得意料理があるものは、よく作るグループで76.3%に対し、時々作るグループでは54.1%と低くなっていた。

「料理情報への関心」では料理情報に関心があるものは、よく作るグループで63.2%に対し、時々作るグループでは34.4%と低く、また関心がないものは、よく作るグループで4.1%に対し、時々作るグループで11.5%と高くなっていた。

最後に「料理の盛り付けへの関心」では、関心があるものは、よく作るグループで34.2%に対し、時々作るグループでは19.7%と低く、また関心がないものは、よく作るグループで5.3%に対し、時々作るグループで11.5%と高くなっていた。

以上、調理参加や調理に対する意識、意欲と卒業時における調理中の態度や計量習慣、調理の復習度で積極的な態度につながっていることが伺えそれぞれ相乗的に関連していた。

### 3-3 実習料理の調理経験

2ケ年の調理学実習で取り上げた料理および菓子の中から50品目を選び、学生が現在までに「授業で習う以前からよく作っていた」「授業で習ってからよく作った」「授業で習ってから1～2回位作ってみた」「授業以外では作らなかった」の4段階に分けて記入させた。

全体で「授業で習う以前からよく作っていた」料理は37.5%で、「授業で習ってからよく作った」料理は3.9%で、「授業で習ってから1～2回位作ってみた」料理は11.3%で、また「授業以外では作らなかった」料理は47.4%であった。（図36）

図37は現在までに授業で習った50品目の料理、菓子の調理経験の割合を表したものである。

a. はじめに「授業で習う以前からよく作っていた」というものが多い料理をあげると、「カレーライス」（145）、「炒飯」（143）「ハンバーグ」（141）「冷しそうめん」（141）「卵巻」（138）で、8割以上の学生が授業で習う以前からよく作っており、これは日常的な料理や若年者に嗜好の高い洋風のもので、比較的簡単な操作の料理が多くなっていた。

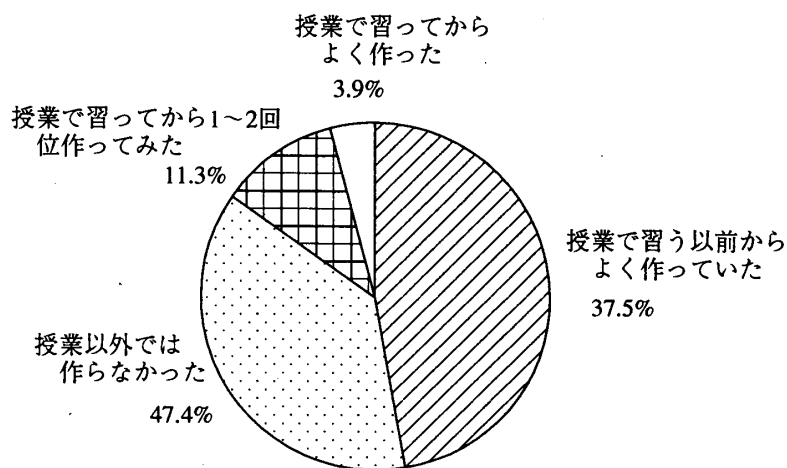
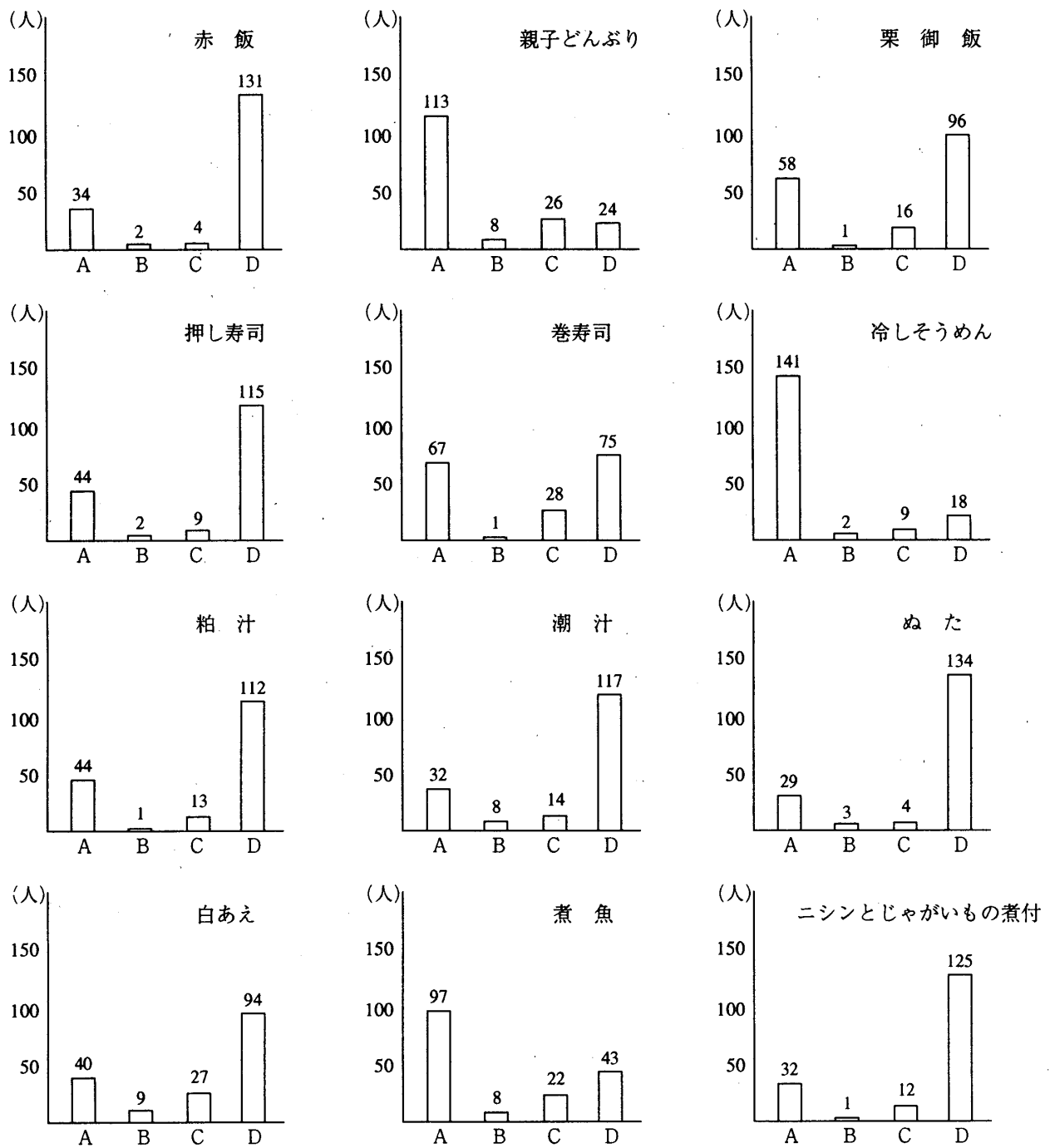


図36 料理50品目の調理経験の割合

中 村 喜 代 美



- A. 授業で習う以前からよく作っていた  
 B. 授業で習ってからよく作った  
 C. 授業で習ってから1~2回位作ってみた  
 D. 授業以外では作らなかった

図37-a 授業で取り上げた料理及び菓子50品目の調理経験

本学学生の調理教育に関する研究（２）

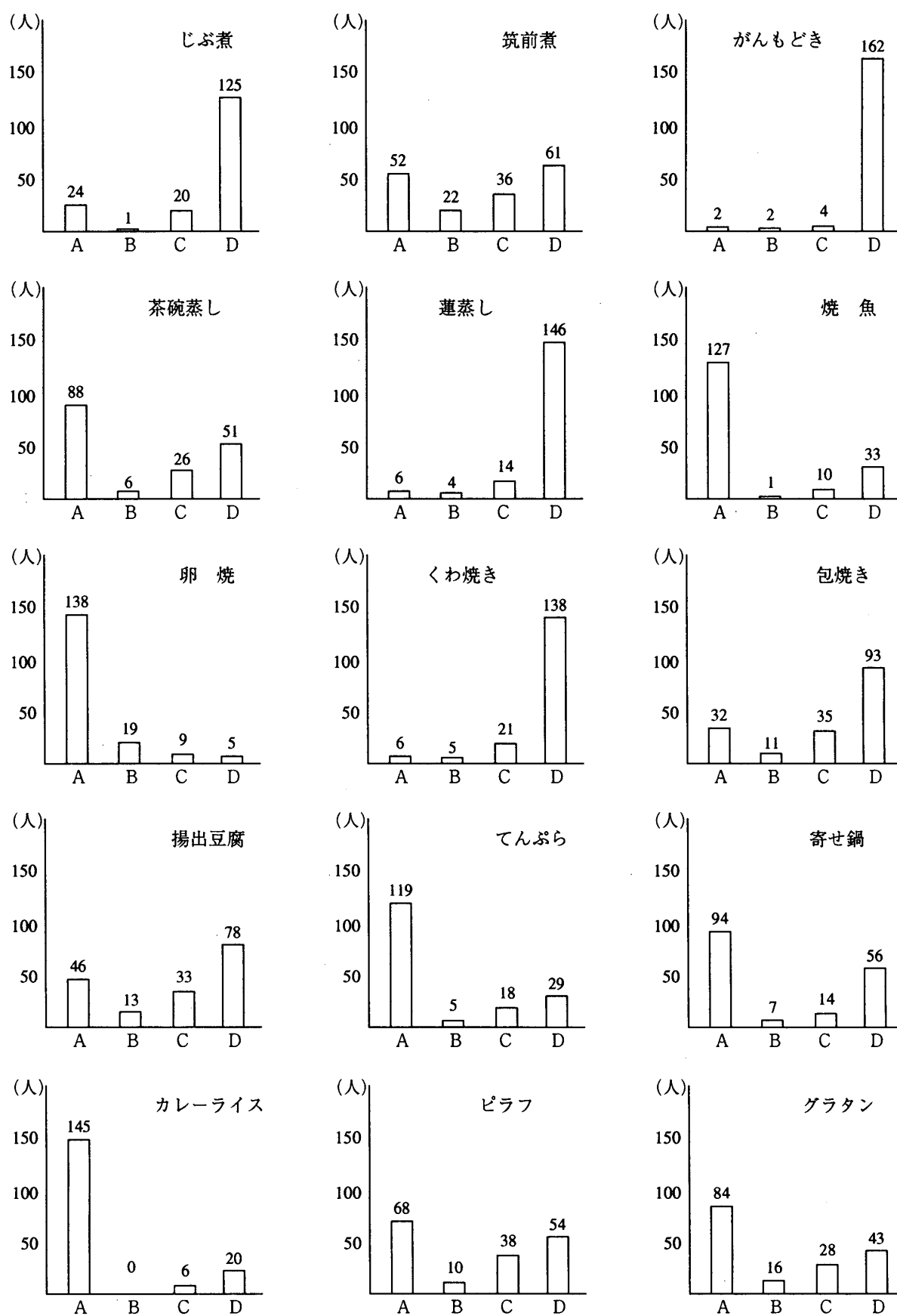


図37-b 授業で取り上げた料理及び菓子50品目の調理経験

中 村 喜 代 美

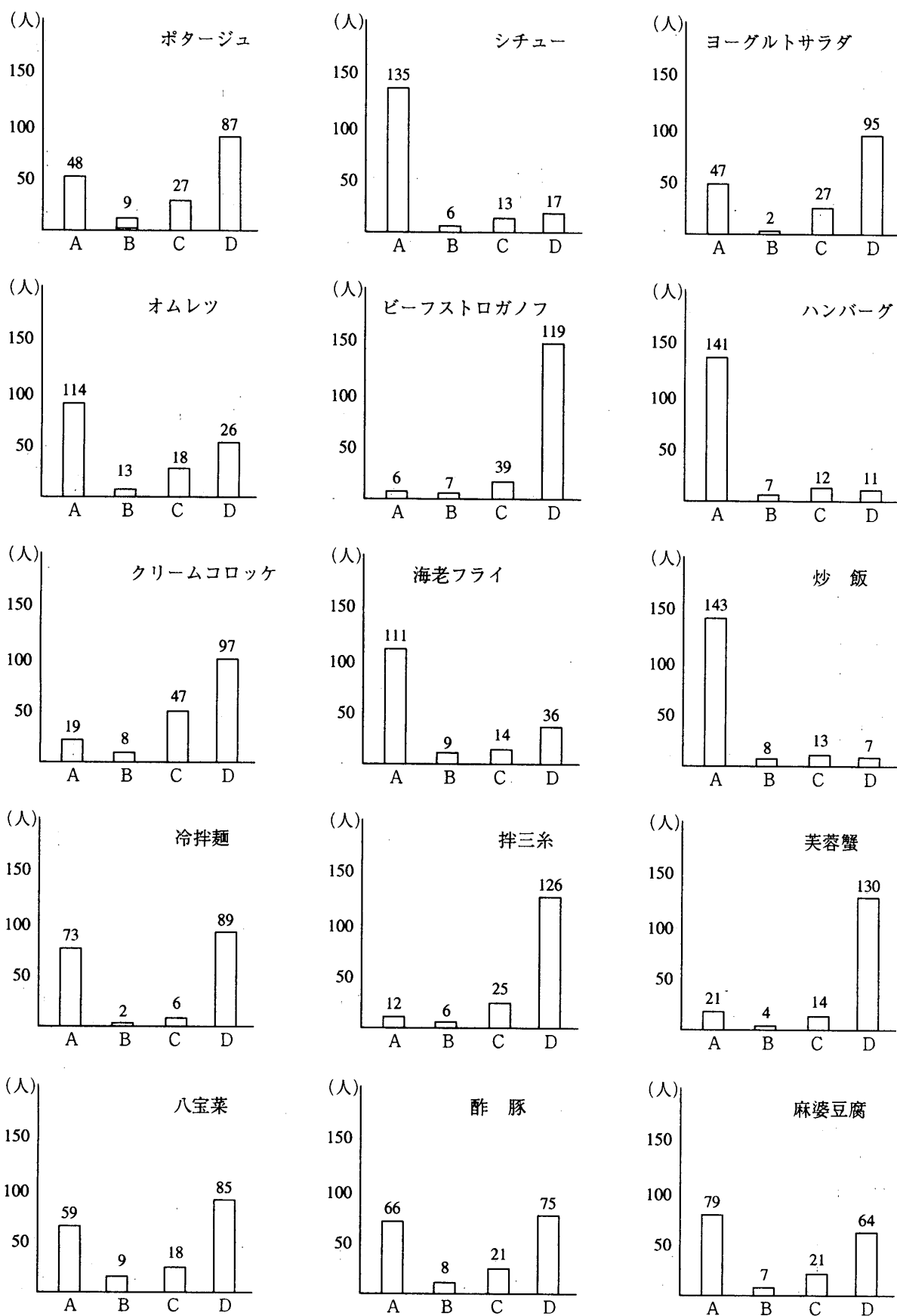


図37-c 授業で取り上げた料理及び菓子50品目の調理経験

本学学生の調理教育に関する研究（２）

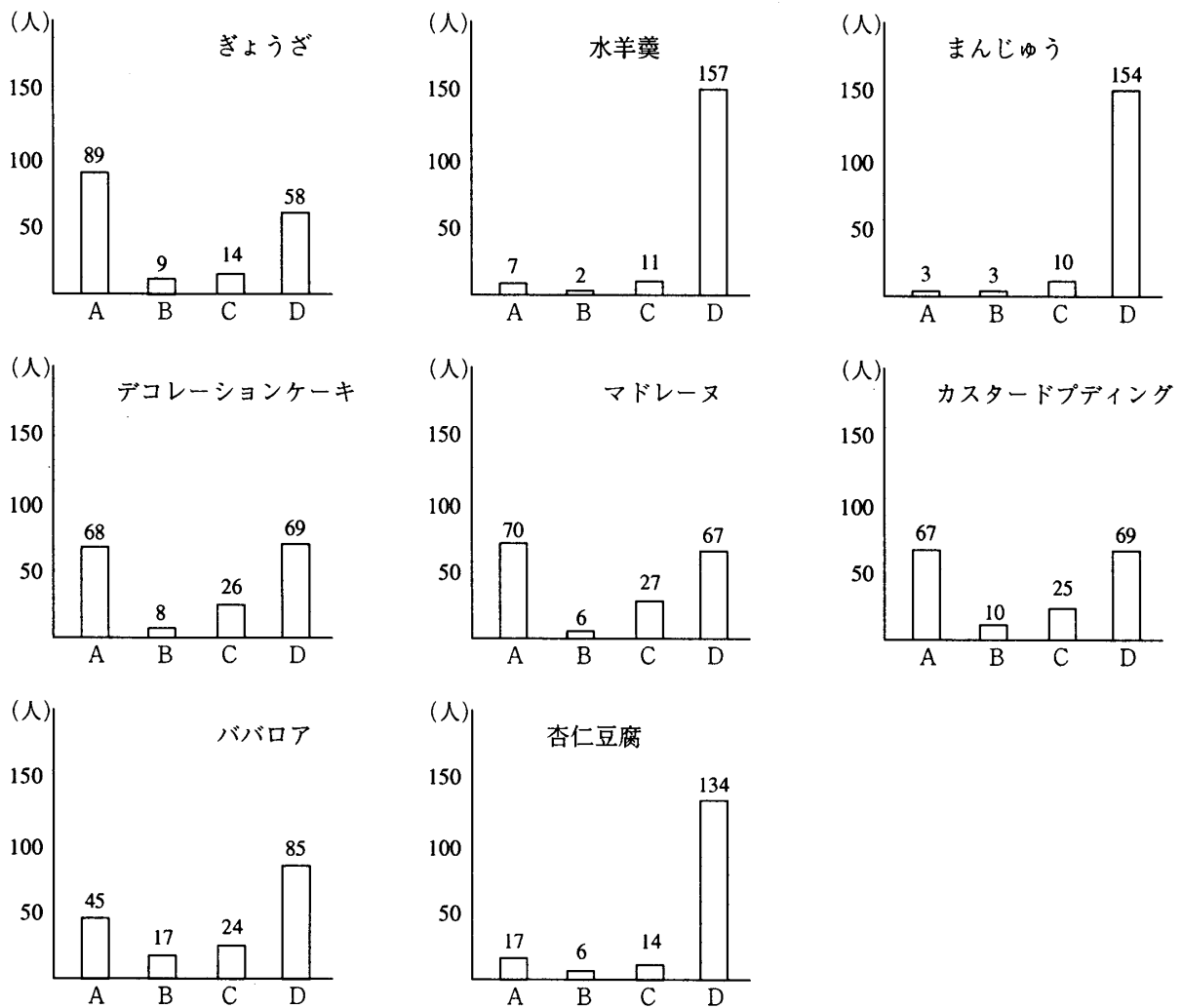


図37-d 授業で取り上げた料理及び菓子50品目の調理経験

b. 「授業で習ってからよく作った」と「授業で習ってから1～2回位作ってみた」というものについて両者合わせて30%以上のものが「筑前煮」(58)「クリームコロッケ」(55)があり、25～30%のものが作ったことがある料理には、「ピラフ」(48)「ビーフストロガノフ」(46)「揚げ出し豆腐」(46)「包み焼」(46)「グラタン」(44)などがある。これらは以前にあまり作ったことがないが、油を使い濃厚な味つけで若年者に嗜好が高い料理である。20～25%のものでは、「ババロア」(41)「ポタージュ」(36)「白あえ」(36)「カスタードプディング」(35)「親子丼」(34)「デコレーションケーキ」(34)があり、これらは日本料理の一般的な料理や学生の好むと思われる料理であり、手法がやや複雑な菓子類があげられる。また10%以下のものでは、「赤飯」(6)「カレーライス」(6)「ぬた」(7)「冷拌麺」(8)「押しずし」(11)「冷しそうめん」(11)「焼魚」(11)「ニシンとじゃが芋の煮付け」(13)「水羊羹」(13)「まんじゅう」(13)「粕汁」(14)が上げられ、これらは学生が作らぬとも日常よく作られている嗜好の高い料理や若年者にとって魅力的な料理ではない郷土料理や伝統料理であり、和菓子が上げられた。

中 村 喜 代 美

以上、学生の家庭における実習料理の復習度について調べたが、家での調理への参加は入学時の頃より料理作り頻度が低くなっておりこのことからわかるが、授業で習った料理を家で復習するものが予想以上に少なく、懸念されるところである。今後私達は、調理教育の立場から授業での学習を日常生活においても生かすことが豊かな食生活を形成するためには大切なことであることを指導することが私達の課題であると考えた。

4. ま と め

前報に引き続き今後の調理教育の方向を考える一助とするために、短大在学中の家庭における調理実態や調理、食への意識や態度、調理復習度などについて調査し検討を行った。

① 調理の実態や食への意識などをみると、入学時に比べ家事への参加度やかかわり方、調理への意識や態度、関心はわずかではあるが高められたが、その中で「料理作りの頻度」や「食事の規則性」「料理の伝承」が低く、これは学生生活が不規則になっているからと思われた。また、料理を母親や祖母から習うことも授業の調理経験によるためか少なくなっていた。

② 各質問項目の関連について検討したが家庭における調理への参加状況と調理に対する意識や関心をみると調理経験を多く重ねるものは、意欲的に調理技術を習得し得意料理があるといった積極的な態度が伺え、また食べ物の買い物によく行っており、料理情報にも関心を示していた。また家庭での調理への参加やかかわり方は1年時と同様に調理技術の習得や調理への関心などと強く関連しているようであった。

③ 調理に対する意識や意欲に関する項目および調理参加状況に関する項目間をみると料理作りを楽しみ意欲的にしているものは、家庭においては、料理は主になって作り、食べ物の買い物にもよく行き、郷土料理にも関心を示し、得意料理もあるといった積極的な様子が伺え、また、料理情報に関心のあるものも同様に調理技術の習得への態度や調理への関心などと強く関連していた。

④ 食生活への態度と調理への関連をみると、入学の時点では、食べ物の好き嫌いがないものの、食生活が規則的なもの、食生活に注意しているものなど、食生活への意識が高いことが必ずしも調理への積極的な態度につながってはいないようであったが、2か年の短大での教育において食への意識や知識が高まり、学生自身の生活の実践に結びついていく傾向がみられた。

⑤ 調理中の態度や計量習慣、調理復習度についてみると、家庭での調理へよく参加しているものや、調理への意識、関心の高いものは、調理に携わる際にも器具や火加減に注意し、計量習慣もあり、授業で習った料理の復習にも熱心であるが、しかし常に計量するものや、包丁練習などを家でよくしたというものは、1割に満たず、調理に対する積極的な取り組みが望まれるところである。

⑥ 調理学実習において取り上げた料理50品目の調理経験について検討した。入学時において調理経験のないものも積極的な取り組みを期得したが、1部を除いては授業以外ではあまり調理する傾向がみられなかった。

以上より、短大における食の学習の中で、入学時よりは調理への意欲や関心は高まり、食生活への意識も関連して向上する傾向が伺えるが、家庭における調理の頻度はむしろ減っており、調理における授業の復習についても予想外に消極的であった。調理の上達には理論の理解のみならず、経験の積み重ねによる技術の習得も不可欠であることを考えると、今後学生には学校での学びの外に日常生活においても調理に積極的に取り組むよう指導していくことの必要性を痛感している。

#### 参 考 文 献

- (1) 高田裕夫 西洋料理 北陸学院短期大学 1993.
- (2) 高田裕夫 中国料理 北陸学院短期大学 1991.
- (3) 新沢祥恵 日本調理 北陸学院短期大学 1991.
- (4) 中村喜代美 北陸学院短期大学紀要 第26号 1994.
- (5) 食料・栄養・健康 1994 食糧栄養調査会 18 医歯薬出版 1994.
- (6) 松坂淳子 調理科学会20 275 1987.
- (7) 支倉サツキ他 概説調理学 16 建帛社 1990.